

記者発表（発表・資料配布）				
月／日 （曜日）	担当事務所名 担当課名	電話	発表者名 （担当）	その他の 配布先
9／25 （水）	森林動物研究センター 環境創造局自然環境課	0795-80-5516 078-362-3463	次長 土岡 正洋 （森林動物専門員 稲葉一明） 課長 今里 卓 （野生鳥獣係長 田口彰）	北播磨、中播磨、西播磨、但馬、丹波県民局

ツキノワグマの出没と注意喚起について

森林動物研究センターが兵庫県下の堅果類（ドングリ類）豊凶調査を行ったところ、今秋、山のドングリ類は、樹種及び地域により差があるものの全体としては並作であることが判明しました。（資料1参照）

本年は今のところ人里への大量出没は認められていませんが、地域によっては今後、冬眠前のクマが餌を求めて、人里へ出没する可能性もあります。

ハイキングや登山、キノコ採集などでクマの生息地域に出かける時はもちろん、集落周辺においてもクマの被害にあわないように十分な注意をお願いします。

1 山の実りの状況（速報）

ブナ	コナラ	ミズナラ	3種全体
並上	凶	並上	並下

2 目撃・痕跡件数

- (1) 県民等から報告された平成25年度の目撃・痕跡情報は9月19日現在331件で、5～7月については過去最高であったが、8月以降は大量出没年であった平成22年度と比較すると少ない（平成22年度は9月末現在で806件）。（資料2参照）

3 被害発生状況

- (1) 本年7月以降、但馬地域を中心に果樹園や集落のカキなどの食害が発生している。地域によっては集落内徘徊や倉庫侵入も発生している。
- (2) 本年度、現時点では人身被害は発生していない。

4 対応

- (1) クマの出没地域では、
- ① 人里であっても、夕方から朝の時間帯の外出には注意する
 - ② 不要なカキの木の伐採や、カキの実の早めの収穫
 - ③ 果樹園は電気柵を設置する
 - ④ クマを誘き寄せる生ごみを屋外に置かない
- などの対策が重要。
- (2) ハイキングなどでクマの生息する山に入るときは音響物（ラジオ・鈴等）を携帯し、出会い頭の遭遇を避けることが重要。（資料3参照）
- (3) 大部分のクマが冬眠に入る12月の中旬ごろまで、十分な注意が必要。
- (4) クマを目撃したり、食害跡、足跡、爪痕などを見つけた場合は、市役所・町役場へ連絡し、早期の対策と地域住民等への周知をお願いします。

添付資料 資料1 堅果類豊凶調査結果概要（速報）
資料2 ツキノワグマの目撃・痕跡状況（H25.9.19現在）
資料3 ツキノワグマの被害防止パンフレット

堅果類豊凶調査結果概要（速報）

■ 豊凶の判定基準

豊凶区分	大豊作	平年値を基準とした場合、極大値の2/3以上
	豊作	平年値を基準とした場合、極大値の1/3以上2/3未満
	並作上	平年値を基準とした場合、極大値の1/3未満
	並作下	極小値を基準とした場合、平年値の2/3以上
	凶作	極小値を基準とした場合、平年値の1/3以上2/3未満
	大凶作	極小値を基準とした場合、平年値の1/3未満

■ 過去5年間の豊凶判定

豊凶区分	樹種	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
		ブナ 豊 大豊 大豊 大豊 3種合計	大凶 大凶 大凶 大凶 大凶	豊 凶 並下 凶	大凶 豊 豊 豊	並上 凶 並上 並下

豊凶指数

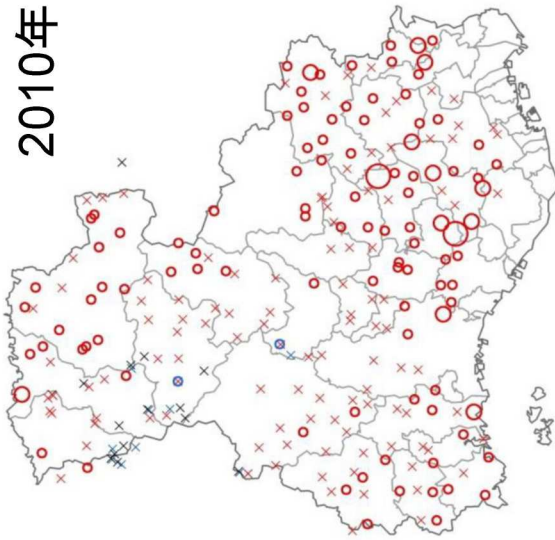


資料 1

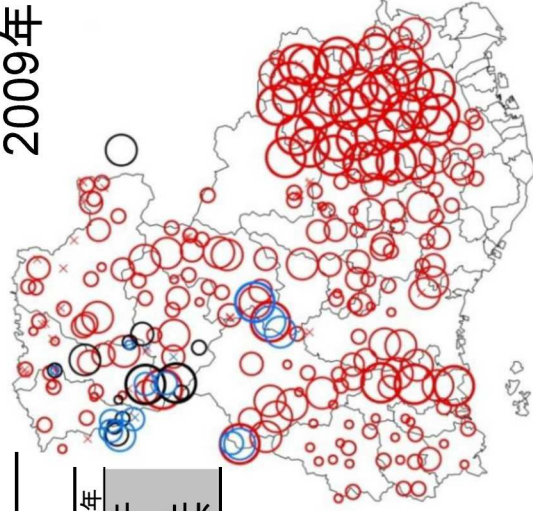
■ 調査手法

- 観測地点数は、コナラ214地点、ブナ15地点、ミズナラ14地点である。
- 毎年9/6-20の期間に、各観測地点で調査を行った。
- 各地点では、10本の供試木を目視し、その豊凶度を4段階(0,1,2,3)判定した。
- 10本の供試木の豊凶度の平均値を、その地点の豊凶指数とした。

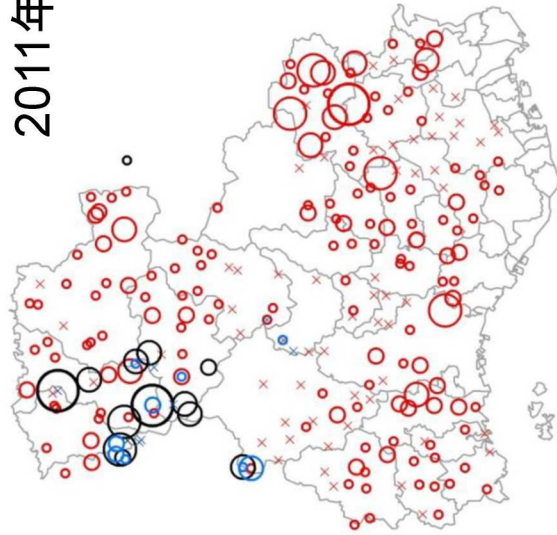
2010年



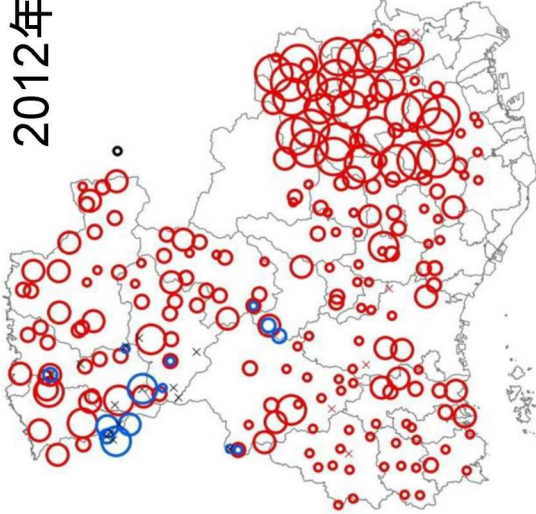
2009年



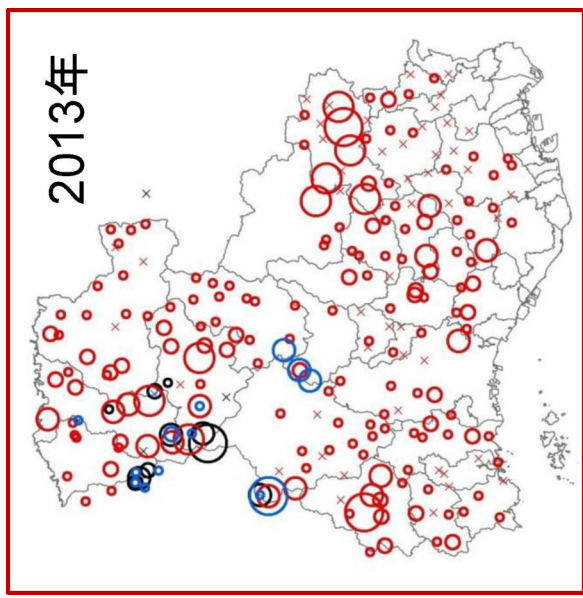
2011年



2012年



2013年



資料 2

ツキノワグマの目撃状況

1 H25年度地域別目撃・痕跡件数

H25年9月19日現在

地域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
北但	11	50	47	42	43	14							207
南但	2	9	13	11	21	8							64
西播		2	11	11	7								31
丹波		6	6	3	1	1							17
中播		1	7	2									10
北播			2										2
阪神													
東播													
神戸													
合計	13	68	86	69	72	23							331
累積数	13	81	167	236	308	331							

2 時期別目撃・痕跡件数(年度比較)

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H25	13	68	86	69	72	23							331
(累計数)	13	81	167	236	308	331							
H24	7	40	91	73	119	110	24	10	8			5	487
(累計数)	7	47	138	211	330	440	464	474	482	482	482	487	
H23	17	33	66	49	29	23	67	47	15	1	1		348
(累計数)	17	50	116	165	194	217	284	331	346	347	348	348	
H22	7	21	66	61	231	420	542	236	30	8	1		1623
(累計数)	7	28	94	155	386	806	1348	1584	1614	1622	1623	1623	
H21	9	27	38	30	35	19	9	3	8	1		2	181
(累計数)	9	36	74	104	139	158	167	170	178	179	179	181	
H20	8	15	38	52	60	72	114	72	15	2	1	1	450
(累計数)	8	23	61	113	173	245	359	431	446	448	449	450	
H19	11	16	40	45	26	11	13	17	5	6			190
(累計数)	11	27	67	112	138	149	162	179	184	190	190	190	
H18	12	20	37	36	74	110	274	150	18	10	1	1	743
(累計数)	12	32	69	105	179	289	563	713	731	741	742	743	
H17	7	26	20	30	13	3	6	10	4	4	1	1	125
(累計数)	7	33	53	83	96	99	105	115	119	123	124	125	
H16	3	12	27	66	72	129	495	169	8	1	2	1	985
(累計数)	3	15	42	108	180	309	804	973	981	982	984	985	
H15	1	16	24	11	11	5	10	7	10			1	96
(累計数)	1	17	41	52	63	68	78	85	95	95	95	96	
H14		11	39	27	77	45	16	6	3				224
(累計数)		11	50	77	154	199	215	221	224	224	224	224	
H13	4	5	22	20	13	12	10	27	5				118
(累計数)	4	9	31	51	64	76	86	113	118	118	118	118	

3 地域別目撃・痕跡件数(年度比較)

年度	北但	南但	西播	丹波	中播	北播	阪神	東播	神戸	合計
H25	207	64	31	17	10	2				331
H24	296	139	34	12	6					487
H23	193	76	63	8	7	1				348
H22	1028	300	194	68	20	9	4			1623
H21	105	13	45	11	4	1	2			181
H20	314	48	64	15	8		1			450
H19	103	34	35	14		2	2			190
H18	415	119	169	29	6		5			743
H17	65	14	29	9	1	7				125
H16	463	148	323	28	21	1	1			985
H15	74	9	8	5						96
H14	129	78	7	8	2					224
H13	71	16	9	19		3				118

ツキノワグマの被害防止

棲み分けによる共存をめざして



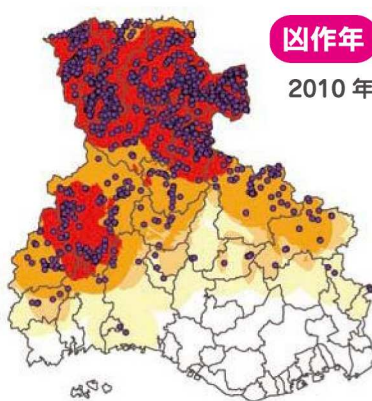
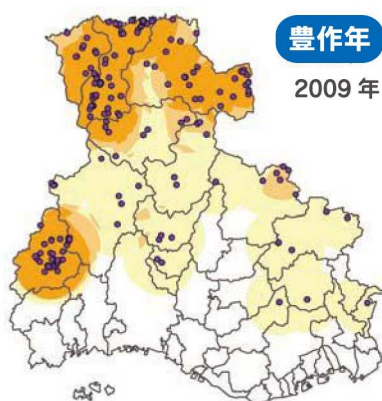
ツキノワグマが集落へ出没し、人身被害や農作物被害、生活被害などが問題となっています。その一方、ツキノワグマは「兵庫県版レッドデータブック 2011」において B ランク絶滅危惧種に選定され、絶滅も危惧されています。兵庫県では人とツキノワグマの棲み分けによる、共存をめざしています。



出没状況 人とクマの遭遇

ツキノワグマの出没状況

ドングリやブナなどの山の実りが凶作の年は、人里への出没が増えます。



但馬地域と西播地域の山間部が分布の中心です。丹波地域や北播地域、まれに阪神方面にも出没します。

冬眠前の秋に里へたくさん出てくることがあります。交尾期の初夏にも行動範囲が広がります。

● 目撃位置

目撃回数（周囲 10km あたり）

■ 5 回未満 ■ 10 回未満 ■ 50 回未満 ■ 50 回以上

こんなときに人身事故が起きます

（兵庫県では過去 10 年間に 11 回の人身事故が発生しています。）

クマは、通常人を避けて生活する動物ですが、急に会おうと相手に一撃を加え、逃げるという習性があります。大きな爪と牙を持っており、一撃により人が死亡するケースもあります。

① 夕刻から早朝の時間帯

クマは日の出、日の入りの時間帯に採食行動が活発になります。夜間は行動が大胆になります。

② 食べ物に執着しているとき

クマはたくさんの食べ物を見つけるとその場所に執着し、近づくものに対して威嚇や攻撃をすることがあります。

③ 人とクマとがはちあわせしたとき

ほとんどの場合、クマは音や臭いによって、人の接近に気づいて逃げます。雨の日や川沿いなど、音や臭いが消される状況で人が急に近づくと、驚いて攻撃することがあります。



写真提供：橋本敏男氏



被害状況と痕跡

カキ、クリ、ナシ、ブドウ、リンゴなどの果樹や、カボチャやスイカなどの野菜を食害することがあります。牛舎の餌や養蜂巣箱、ニワトリ、倉庫に保管してある食べ物なども被害にあうことがあります。また、樹上にクマ棚を作ったり、樹皮にツメ跡を残します。糞や足跡を残すこともあります。

被害状況



リンゴ食害



ニワトリ食害



牛舎侵入



養蜂巣箱破壊

痕跡



クマ棚



糞



ツメ跡



成獣オスの足跡



生活史と出沒の関係

生活史

クマの行動が活発になるのは、初夏の交尾期と秋の飽食期です。交尾期は特にオスが行動圏を広げるため、通常クマが出沒しないような地域にまで移動することがあります。

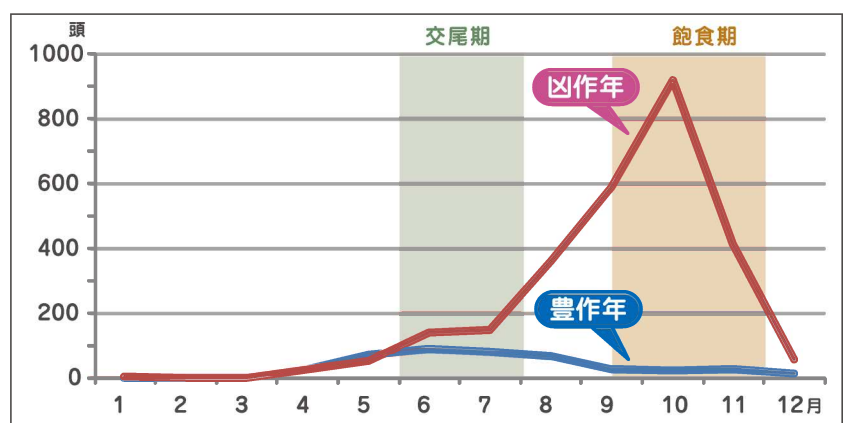
飽食期は、冬眠に備え食欲が増すため、食べ物が大量に得られる場所に長時間滞在し食べ続けます。

生活史	冬眠			交尾期			飽食期			冬眠		
月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
オス	メスを求めて 行動圏を広げる											
妊娠メス	↑出産（1～2頭） 授乳			子連れ期			出産した メスは発情しない			子どもと同一の 冬眠穴に入る		
子連れメス	子連れ期					子別れと発情					↑妊娠	

山の実りと出沒

クマが好むドングリや果実が凶作の年には、人里のカキや生ゴミなどに誘引され、夏以降に大量に出沒することがあります。

豊作の年には、人里での目撃はほとんどなくなります。ただし、初夏は交尾のため、行動範囲が広がり目撃が増える傾向にあります。



月ごとのクマの目撃件数（2005年～2010年の合計）



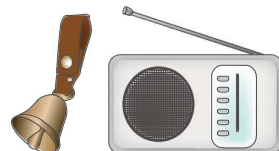
被害対策

出会わない！呼び寄せない！

ばったり出会わないために

① 山林に行くときは音の出るものを携行しましょう

山や森林付近の農地に出かけるとき、あるいは夜間に外出するときは、鈴やラジオなど音の出るものを身に付けましょう。とくに雨の日や川沿いは、人間の臭いや物音がクマに伝わりにくいので、大きな音を出しましょう。



② 人里でも夕方から朝までの外出は注意しましょう

クマは夕方から早朝にかけて、人里に出没する可能性が高くなります。この時間帯は、カキやクリの木の下など、クマがいそうな所に近づかないでください。

悪いクマにさせないために

集落への出没や、農作物被害を放っておくと、クマの行動がエスカレートして、悪いクマになっていきます。

① 誘引物の除去

・ゴミを野外に置かないようにしましょう

ゴミ（とくに生ゴミ）はクマを誘引します。屋外に置かないようにしましょう。また、田畑への残飯まき、収穫しない野菜の放置も厳禁です。



・食料は、屋内に収納しましょう

クマは臭いにとても敏感です。屋外や侵入できる納屋などにある食料に気づいて、食べにくる恐れがあります。果物、穀物、ペットフードなどは要注意です。

・不要なカキやクリの木は伐採しましょう

収穫しない不要なカキやクリの木は、出来るだけ伐採しましょう。伐採が困難な場合は、防護するか、果実を早めに取り除きましょう。



カキの木の伐採

② 環境整備

住居や通路周辺にクマがひそみやすいヤブがある場合は、刈り取って見通しをよくしましょう。



近寄りやすい環境



近寄りにくい環境

③ 防護

トタン巻き

クマが登るカキやクリで不要なものは出来るだけ伐採しましょう。切れない木には、幹にトタンを巻きつけ、クマが登れないように防護します。



ポイント

- ・地上1～3mをカバー
- ・トタンの波目は縦向き

電気柵

果樹園や養蜂巣箱は、電気柵で守りましょう。クマの侵入ルートがわかっている場合は、周辺のヤブを刈り払い、侵入ルートを横切るように電気柵を張ります。



ポイント

- ・一段目は20cm程度
- ・漏電防止の為、要草刈



もし出会ってしまったら

※相手が野生動物である以上、絶対に安全を確保できる方法はありませんが、一般論として言われている内容を示します。参考にしてください。



クマがこちらに
気づいていない

気づかれないように静かに その場を立ち去る

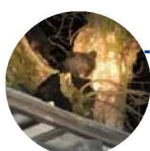


クマがこちらに
気づいている

ゆっくりと後退し その場を立ち去る



大声を出したり、走ったりするのは、かえってクマを興奮させます。落ち着いて状況をよく判断してから、刺激しないように、その場からゆっくり立ち去りましょう。



集落にクマが出没したら

- ▶ 周辺の住民に知らせ、近づかないよう安全確保を徹底しましょう。
- ▶ クマの出没を、市役所・町役場へ連絡しましょう。
- ▶ 夜間にカキの木に登っている場合などは、無理に追い払いはせずに、翌朝クマが山に帰るのを待って、防護対策を行ないましょう。

追い払い

花火、爆竹などで追い払います。危険を伴いますので、市役所や町役場と相談の上、万全の安全を確保して行なってください。状況により森林動物研究センターも追い払いを実施します。



捕獲

誘引物の除去や防護、追い払いをしても効果が無い場合や、人身事故の危険が高い場合は、有害捕獲を行います。有害捕獲の実施については、市役所や町役場に相談してください。



クマの目撃・痕跡情報をお知らせください

人里・山中にかかわらず、クマを目撃したり痕跡を確認した場合は、最寄りの市役所、町役場に連絡をお願いします。対策を検討し、被害を最小限にとどめるために必要です。

皆様からいただいた目撃・痕跡情報は、
森林動物研究センターのホームページで公開しています。

<http://www.wmi-hyogo.jp/> ツキノワグマ目撃情報



兵庫県
森林動物研究センター
Wildlife Management Research Center, Hyogo

森林動物研究センターでは、クマの生態調査や獣害に強い集落づくりの指導・助言を行っています。

